【問題一】

問題は、ノーベル賞経済学者のJ. J. Heckmanが示すペリー就学前プロジェクトに関するものである。

ペリー就学前プロジェクトは、一九六二年から一九六七年にミシガン州で、低所得のアフリカ系五八世帯の子供を対象に実施された。就学前の幼児に対して、午前中に毎日二時間半ずつ教室での授業を受けさせ、さらに週に一度は教師が各家庭を訪問して九〇分間の指導をした。

指導内容は子供の年齢と能力に応じて調整され、非認知的特質を育てることに重点を置いて、子供の自発性を大切にする活動を中心としていた。教師は子供が自分で考えた遊びを実践し、毎日復習するように促した。復習は集団で行い、子供たちに重要な社会的スキルを教えた。就学前教育は三〇週間続けられた。そして、就学前教育の終了後、これを受けた子供と受けなかった対照グループの子供を四〇歳まで追跡調査した。

別添の資料にある図4.1および4.2は、ペリー就学前プロジェクトの実験グループ（就学前教育を受けた子供）と対照グループの比較図である。

これらの図から読み取れることをまとめなさい。（二〇〇字以内）

【問題二】

幼少時の就学前教育が、子供達にどの様な効果をもたらしますか。その理由はなんですか。あなたの考えを述べなさい。（四〇〇～六〇〇字）

＊所定の原稿用紙を使用して下さい。

＊下書きの原稿用紙もありますので、必要に応じて利用して下さい。

（注）

非認知的特質（非認知能力）

非認知的特質（非認知能力）とは、IQ（知能指数）などの数値で示される認知能力とは異なり、学びに向かう力や姿勢」のような「目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢」を中心としたスキルである（無藤，2016）。

無藤隆（2016）．生涯の学びを支える「非認知能力」をどう育てるか、これからの幼児教育 2016 春号．18-21．ベネッセ教育総合研究所

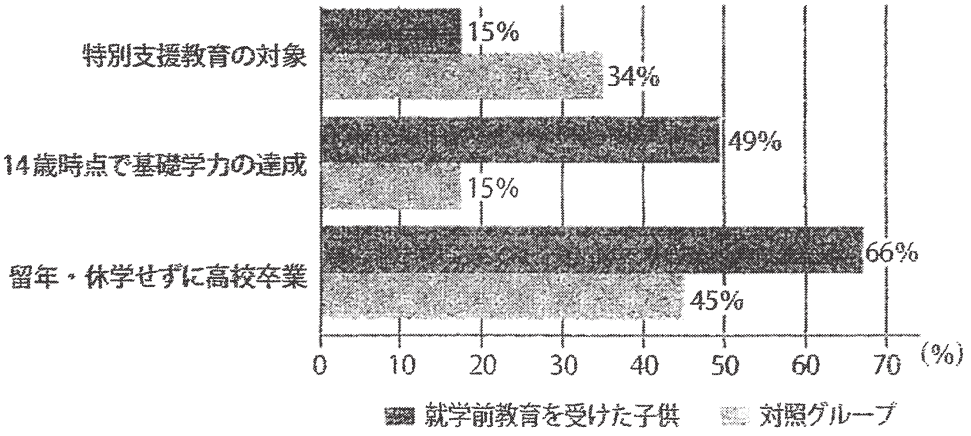
引用文献

ジェームズ・J・ヘックマン著　古草秀子（訳）2015　幼児教育の経済学　東洋経済新報社

（以上）

図4.1 ペリー就学前プロジェクトの効果

教育的効果



40歳時点での経済効果

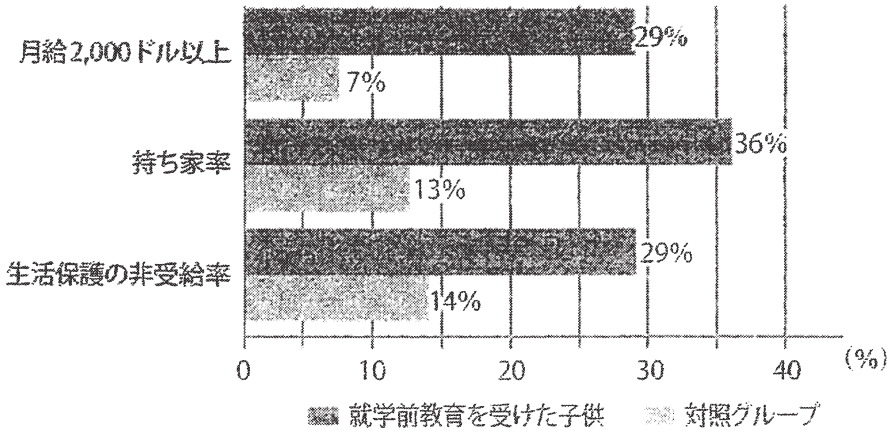
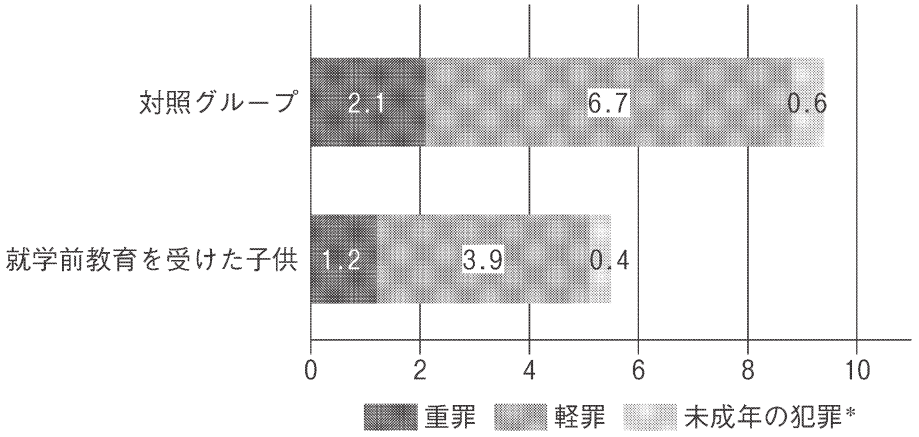


図4.2 40歳時点での逮捕者率



(出所) W. S. Barnett. "Benefit-Cost Analysis of Preschool Education." 2004.
＊19歳未満の逮捕

(J. J. Heckman 2015 P30-31)